

# 平成16年度試験研究成果書

区分	普及	題名	品種 耐冷性・耐病性に優れる良質・良食味 中生粳水稻「岩手68号」		
〔要約〕 水稻「岩手68号」は、耐冷性は「あきたこまち」より強く、「ひとめぼれ」並の極強。耐病性は穂いもち圃場抵抗性が強く、「あきたこまち」や「ひとめぼれ」より明らかに強い。収量性は「あきたこまち」よりやや多収。品質・食味は「あきたこまち」並に優れる。出穂期・成熟期は「あきたこまち」よりやや遅く、「ひとめぼれ」よりやや早い「中生の中」に属する粳米である。					
キーワード	品種候補	岩手68号	耐冷性・耐病性	農産部水田作研究室 水稲育種研究室	

## 1 背景とねらい

産地間競争が激化する中で、本県では市場評価の高い「ひとめぼれ」や「あきたこまち」などの銘柄米に作付けが集中している。しかしながら、中生の「あきたこまち」は耐冷性が弱く、冷害時には障害不稔が多発し、作柄を低下させる要因となっている。

また、農産物の安全性に対する消費者の要望が強く、特別栽培米等の取り組みが拡大しているが、「ひとめぼれ」や「あきたこまち」はいもち病耐病性に劣り、病害が多発する危険性を有している。

以上から、より一層の高品質・安定生産を図るためには、高度耐冷性を有し、いもち病耐病性に優れる、良質・良食味品種を導入する必要がある。

「岩手68号」は強い耐冷性と穂いもち圃場抵抗性を有しており、品質・食味が優れる中生粳品種として有望であることからその特性を紹介する。

## 2 成果の内容（表1）

### （1）来歴

「岩手68号」は平成8年に旧岩手県農業試験場県南分場（江刺市）において、「岩南7号」を母、「ふ系179号」を父として人工交配を行った雑種から育成された。

### （2）特性の概要

ア 「岩手68号」の出穂期・成熟期は「あきたこまち」よりやや遅く、「ひとめぼれ」より早い「中生の中」。稈長は「あきたこまち」よりやや短く、穂長はやや長い。穂数は「あきたこまち」よりやや少ない「中間型」の草型である。

イ 稈は“やや太”、稈質は“剛”であり、耐倒伏性は「あきたこまち」「ひとめぼれ」より倒伏しにくい“強”、芒の多少と長短は“稀・極短”であり、「あきたこまち」に比べ短い。ふ先色は“黄白”、粒着密度は“やや密”、脱粒性は“難”である。

ウ 玄米千粒重は「あきたこまち」より重く、収量性は「あきたこまち」よりやや多収である。玄米の長さは「あきたこまち」よりやや長く、幅は大きい。粒厚は「あきたこまち」より厚い。

エ 玄米の外観品質は整粒歩合が高く、「あきたこまち」並の“上中”である。

オ いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pii, Pik*”と推定され、圃場抵抗性は葉いもちは「あきたこまち」並の“やや弱”であるが、穂いもちは「あきたこまち」や「ひとめぼれ」より明らかに強い“強”である。

カ 穂発芽性は“難”である。

キ 障害型耐冷性は“極強”であり、「あきたこまち」より優れ、「ひとめぼれ」並である。

ク 食味は優れ「あきたこまち」並である。炊飯粒の形がしっかりとてつぶれにくく、適度な弾力があり、バランスのとれた食感を有する。

## 3 成果活用上の留意事項

（1）多肥栽培では食味・品質が低下する恐れがあるので、当面基肥は「あきたこまち」並とする。

幼穂形成期に窒素濃度が低下すると籾数が減少し、減収するので追肥は幼穂形成期を重点とする。

（2）いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pii, Pik*”であり、穂いもち圃場抵抗性が“強”であるが、葉いもち圃場抵抗性が“やや弱”のため、葉いもちの防除は実施する必要がある。

（3）刈り取り適期は登熟積算気温で950～1050℃、黄化籾率85%前後を目安として刈り取りを行う。

## 4 成果の活用方法

（1）適用地帯又は対象者等

栽培適地は、盛岡以南の北上川流域標高100～200m及び宮古以南の沿岸部標高100m以下の約23,000haである（図1）。

（2）期待する活用効果

中生品種の作柄安定化

特別栽培米の品質・収量の安定化

5 当該事項に関わる試験研究課題

- (803) 水稻奨励品種決定調査 (H14~H18、県単)
- (2100) 奨励品種決定本調査 (H14~H18、県単)
- (3000) 奨励品種決定現地調査 (H14~H18、県単)
- (58) 有望系統の栽培特性と高品質安定栽培技術の確立
- (4000) 水稻有望系統「岩手68号」の栽培特性

6 参考文献・資料

- (1) 岩手県農業研究センター 平成14年度 水稻新配布系統成績書
- (2) 岩手県農業研究センター 平成14~16年度水田作研究室試験成績書 (一部未定稿)
- (3) 岩手県農業研究センター 平成12~16年度水稻新品種育成試験成績書 (一部未定稿)

7 試験成績の概要

表1 特性の一覧表

系統名	岩手68号	交配組合せ	岩南7号／ふ系179号			
特性	長所：良質・良食味・耐冷性“極強” 穂いもち圃場抵抗性“強”			短所：葉いもち圃場抵抗性“やや弱”		
採用県及び栽培適地面積	岩手県 23,000ha					
調査地	岩手県農業研究センター			現地試験 (奨励品種決定調査)		
調査年次	平成14~16年			平成15~16年		
系統名・品種名	岩手68号	あきたこまち	ひとめぼれ	岩手68号	あきたこまち	ひとめぼれ
早晩性	中生の中	中生の早	晩生の中	中生の中	中生の早	晩生の中
草型	中間型	偏穂数型	偏穂数型	中間型	偏穂数型	偏穂数型
出穂期(月日)	8月5日	8月3日	8月7日	8月9日	8月6日	8月11日
成熟期(月日)	9月21日	9月17日	9月26日	9月22日	9月19日	9月24日
稈長(cm)	80.6	83.5	82.2	73.2	73.4	74.0
穂長(cm)	19.0	17.8	19.1	17.1	16.8	17.3
穂数(本/m <sup>2</sup> )	392	425	439	397	425	426
芒の多少・長短	稀・極短	稀・短	少・短			
ふ先色	黄白	黄白	黄白			
脱粒性	難	難	難			
耐倒伏性	強	中	やや弱			
穂発芽性	難	難	難			
耐冷性	極強	中	極強			
耐病性	いもち病 真性葉穂	<i>Pii, k</i> やや弱 強	<i>Pia, i</i> やや弱 やや弱	<i>Pii</i> やや弱 中		
玄米収量(kg/a)	57.5	51.9	59.2	47.7	36.8	49.0
対標準比	111	(100)	114	129	(100)	133
玄米千粒重(g)	23.5	21.0	22.6	23.8	21.5	22.6
品質(検査等級)	2.0	2.3	2.3	3.1	2.9	2.2

注1) 標準区の結果

注2) 品質は、検査等級による評価で、検査等級1上~3下、規格外をそれぞれ、1~9, 10点とした、スコア値の平均である。

表2 穂いもち耐病性調査結果

(H15 山田町豊間根 宮古農業改良普及センター調査)

品種・系統名	葉いもち		穂いもち発病穂率(%)		合計
	発病程度	首いもち	枝梗いもち		
			1/3以上	1/3以下	
岩手68号	無	0.0	0.0	5.9	5.9
あきたこまち	微	74.0	19.5	6.5	100.0

注1) 防除実績は5/15: Dr. リセップ50g/箱、7/20: フジワ粒剤4kg/10a、

7/30: ヒダソ乳剤(1000倍)150L/10a、8/12: ヒダソ乳剤(1000倍)150L/10a

注2) 当地域はH15に地域全体でいもち病が発生し、被害が大きかった地域。

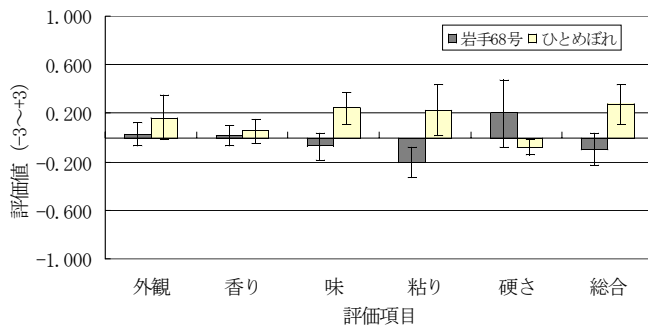


図2 食味官能試験結果

注1) 基準品種：あきたこまち H14~H16の7回平均

注2) 図中のエラーバーは標準偏差範囲

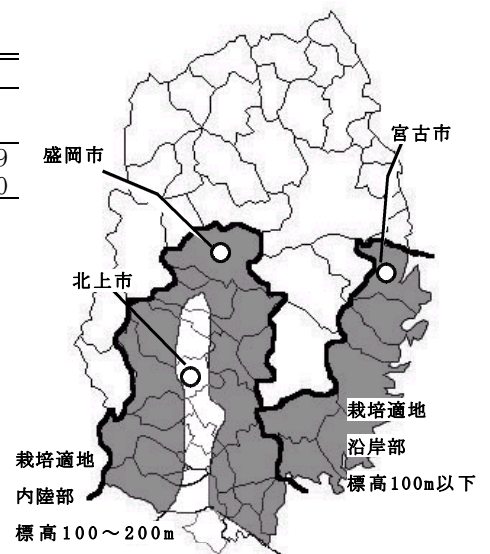


図1 「岩手68号」の栽培適地

注1) 太線内は栽培可能地域

注2) 栽培適地